

* 研究授業からの学び

R 6.8.27

No. 1

令和6年 6月25日 (水)

第4学年 算数科 谷口 由紀 教諭

単元名 「わり算のしかたを考えよう」全11時間

小単元3 「3位数÷1位数の首位に商がたたない筆算の仕方を考える」(4時間)

<単元でつきたい力>

・整数の情報について数学的に表現・処理したことを振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考える態度。

【学びに向かう力・人間性】

・除数が1位数や2位数で被除数が2位数や3位数の場合の計算が、基本的な計算を基にしてできることを理解すること。また、その筆算の仕方について理解すること。

・除法の計算が確実にでき、それを適切に用いること。

・(被除数) = (除数) × (商) + (余り) の関係について理解すること。

・除法に関して成り立つ性質について理解する。

【知識・理解】

・数量の関係に着目し、計算の仕方を考えたり計算に関して成り立つ性質を見出したりするとともに、その性質を活用して、計算を工夫したり計算の確かめをしたりすること。

【思考力、判断力、表現力】

本時の目標

3位数÷1位数の首位の数が除数より小さい場合でも、既習の筆算の仕方や数のまとまりを基に具体物や式を用いて、計算の仕方を考え、理解できる。

本時の評価規準

3位数÷1位数の首位の数が除数より小さい場合でも、既習の筆算の仕方や数のまとまりを基に具体物や式を用いて、計算の仕方を考え、理解している。「(発言・ノート)【思】」

本時における見方・考え方

数のまとまりを基に、100のまとまりを10のまとまりに分解し、十の位を計算すれば良いことを見出すことができる。

本時の板書



本時の授業風景



研究協議より (抜粋)

授業者より

- ・個人の考えを全体で共有するときに、筆算から取り上げて25の意味を考えさせたかったが、カードを書いている児童を取り上げて説明させるのかわで迷った。
- ・適応問題が、本時のところと以前習ったところで複雑なため、理解度を図るのに不適切であると考ええる。

参観者より

- 既習との違いからめあてを導き、導入の流れがスムーズだった。
- 個人思考の時に、数直線や図など、自然に児童から出ていた。
- 個の考えの表現方法が様々だった。
- めあてまでの時間が15分間だったので、もっとあっさりといけるといい。
- 筆算はできていたが、意味理解が不十分であった。
- 全員の考えを共有する時間が少なく、ロイロノートに全員の考えを見合う時間を十分に確保できていない。
- 発問の言葉に注意する。

武内チーフより【西部教育事務所】

- ・100の束を10の束に分解することを、導入や発問、適応問題の中で、筆算と図と関連させながらこだわり一貫して授業を展開する。
- ・筆算途中の「25」の意味を問うのではなく、十の位の商に6がたつ理由を児童に考えさせることで、もっと100の束を10の束に分解することに目を向けやすくなる。そのことを、適応問題のときにも問うて説明させる活動を取り入れる。
- ・めあてまでに、自力解決できないと思っていた児童に、考えを尋ねる。
- ・100の束を10の束に分解するということが理解できていた児童と理解できていない児童がいたので、板書の10の束を囲う等して、板書を効果的に使う。

授業者のリフレクションより

- ・授業でこだわりを持つために、単元の見方・考え方を1~6年まで通して確認し、その単元でどんなことを貫いて学習展開するのかを認識して授業に取り組むことが大切だと考えた。
- ・板書の意味をもう一度考え、上記で述べたこだわりが分かる板書を目指す。

☆4年生でこれから取り組んでいきたいこと

- * 一目見て、その1時間でこだわりが分かる板書。
- * 教材研究の時には、単元や授業の見方・考え方で貫かれていることは何かを意識して、授業展開を考える。